

港区立麻布子ども中高生プラザ 指定管理者候補者選考委員会 報 告 書

令和6年7月9日

港区立麻布子ども中高生プラザ
指定管理者候補者選考委員会

目 次

はじめに

I	選考した指定管理者候補者について	1
II	選考経過について	2
III	選考対象者について	4
IV	選考結果について	5
V	最終選考結果について	7

はじめに

本報告書は、港区立麻布子ども中高生プラザの指定管理者候補者を選考するにあたり、「港区立麻布子ども中高生プラザ指定管理者候補者選考委員会」における審査の経過及び結果について報告するものです。

港区が定めた「港区指定管理者制度運用指針」では、民間事業者等が持つノウハウやアイデア、専門性などを活用することにより、多様化する区民ニーズへの柔軟かつ迅速な対応や効率的で効果的な区民サービスの提供が可能となる施設については、積極的に指定管理者制度の導入を進めるとしています。

「港区立麻布子ども中高生プラザ指定管理者候補者選考委員会」は、このような視点を踏まえた上で、麻布子ども中高生プラザの設置目的を最大限に活かし、効率的・効果的に区民サービスを提供することができる候補者の選考を行いました。

審査にあたっては、常に厳正さと公正さを確保するとともに、委員会として委員の総意の下に結論を導き出すよう努めました。

港区立麻布子ども中高生プラザ指定管理者候補者には、2事業者から応募があり、様々な提案を受けることができました。いずれの提案も現状の課題を的確に捉え、かつ、将来を見据えた大変優れた提案であったため、選考作業は困難を極めましたが、指定管理者を公募した目的が十分達成されたものと大変喜ばしく感じています。

応募いただいた事業者の皆様には深く感謝するとともに、選ばれた事業者には、港区立子ども中高生プラザ条例に定める目的の達成に向け、指定管理者として十二分に力を発揮されることを強く期待します。

令和6年7月9日

港区立麻布子ども中高生プラザ指定管理者候補者選考委員会
委員長 阿 部 真 美 子

I 選考した指定管理者候補者について

1 指定管理者候補者

名 称	公益財団法人児童育成協会
代表者	理事長 鈴木 一 光
所在地	東京都千代田区四番町 2 番地 12

2 対象施設

施設の名称	所在地
港区立麻布子ども中高生プラザ	東京都港区南麻布四丁目 6 番 7 号

3 指定期間 令和 7 年 4 月 1 日から令和 12 年 3 月 31 日まで（5 年）

4 選考の理由

- （1）幅広い年代が利用できる大型児童センターとしての施設特性を活かし、中高生世代向けの事業、障害がある子どもたちへ向けた事業など多面的な視点から具体的な提案がされており高く評価できます。
- （2）学校及び地域との連携、近隣施設である児童発達支援センターにも目を向けた取組、外国籍利用者がいることを想定した国際性を活かしたプログラム等、法人のこれまでの経験を踏まえた具体的な提案であり、子どもの居場所として施設を展開していく姿勢が高く評価できます。
- （3）施設長候補者は、コミュニケーション能力に長けており、子どもたちに限らず、保護者や職員とも良好な関係を構築できることが期待できます。また、地域のつながりを大切にし、地域に愛される施設づくりを目指す事業者としての姿勢、意欲に期待ができ、高く評価できます。
- （4）麻布地区の地域特性をよく理解し、多言語対応を考慮した職員配置、大型児童センターの施設長としての経験がある職員を副施設長候補者として配置し、安定的な運営を図ろうという管理運営計画が高く評価できます。

Ⅱ 選考経過について

1 選考の方法

(1) 第一次審査

応募法人から提出された申請書類及び計画書類について、財務関係書類、基本的事項の適格審査、計画書類に対する評価をもとに総合的な審査を行い、第一次審査通過者として2事業者を選考しました。

(2) 第二次審査

第一次審査通過者に対して、プレゼンテーション及びヒアリングを行い、(第一次審査と第二次審査とを併せた) 総合評価により指定管理者候補者を選考しました。

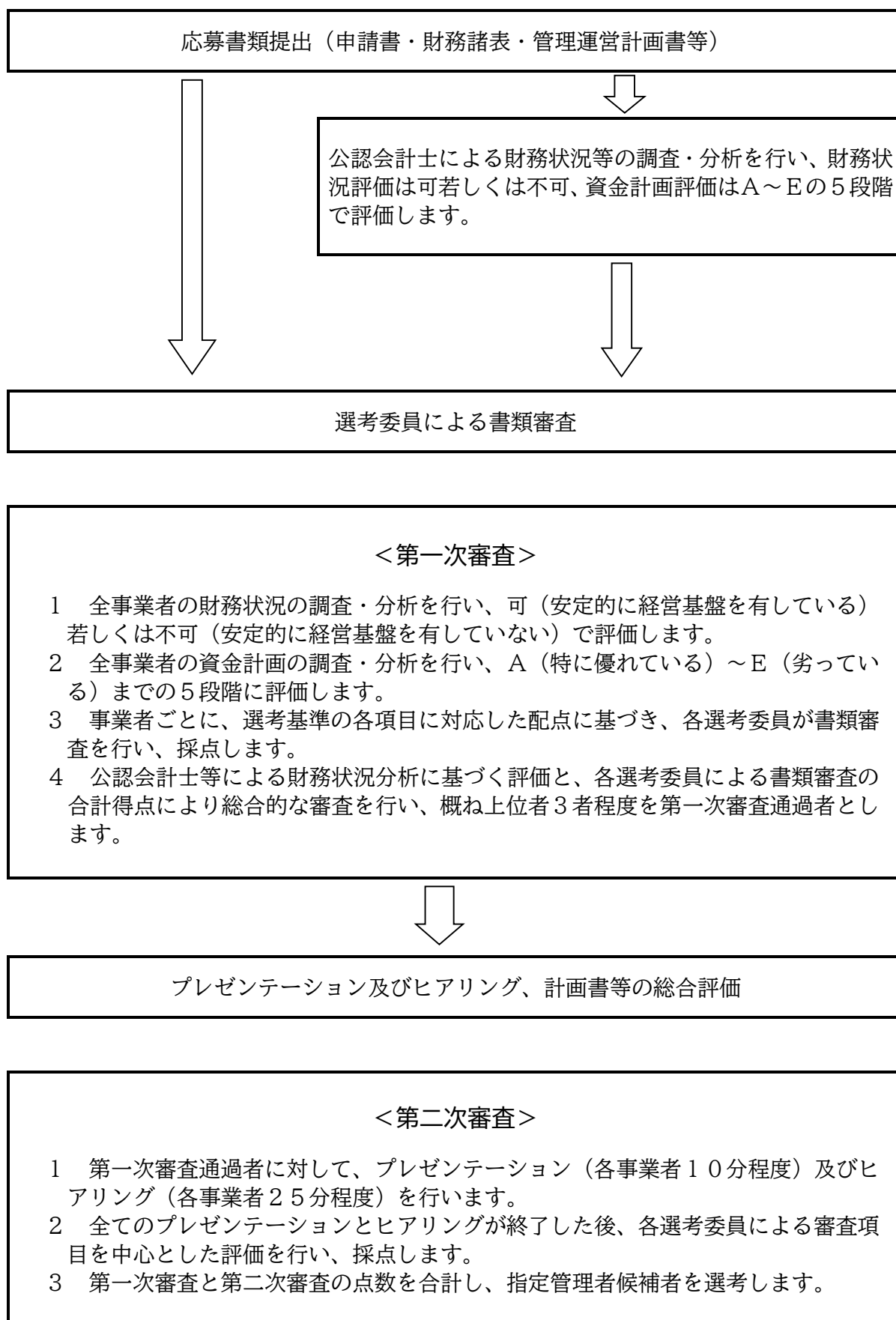
2 選考委員会の構成

委員長	阿 部 真 美 子	山梨県立大学・聖徳大学 名誉教授
副委員長	富 田 慎 二 (令和6年3月31日まで)	港区麻布地区総合支所長
	大 澤 鉄 也 (令和6年4月1日から)	
委 員	秋 山 展 子	秋草学園短期大学 地域保育学科 准教授
//	請 川 滋 大	日本女子大学 家政学部児童学科 教授
//	矢 ノ 目 真 展	港区子ども家庭支援部子ども若者支援課長

3 公認会計士

井 上 大 輔	株式会社港公会計 代表取締役
---------	----------------

4 選考の進め方



5 選考委員会等の開催状況及び経過

(1) 第1回選考委員会

日 時 令和6年2月5日（月曜日） 14時～15時
場 所 オンライン会議
議 題 委員の委嘱について
候補者の選考方法について
公募要項について
選考基準について

(2) 公募手続き

ア 公募要項説明会 令和6年2月19日（月曜日）
イ 現地見学会 2月27日（火曜日）
ウ 申請受付（第一次提出） 2月19日（月曜日）～5月24日（金曜日）
エ 質問書受付 2月19日（月曜日）～3月1日（金曜日）
オ 質問への回答 3月11日（月曜日）
カ 計画書類等受付（第二次提出） 2月19日（月曜日）～5月24日（金曜日）

(3) 第2回選考委員会（第一次審査）

日 時 令和6年6月17日（月曜日） 15時～16時30分
場 所 オンライン会議
議 題 応募事業者の財務状況等について
第一次審査（書類審査）
第二次審査の方法について

(4) 第3回選考委員会（第二次審査）

日 時 令和6年7月9日（火曜日） 17時30分～19時
場 所 港区麻布地区総合支所3階 第一会議室
議 題 第二次審査（プレゼンテーション及びヒアリング）
候補者の決定について

Ⅲ 選考対象者について

No	事業者の名称	所在地
1	事業者A（公益財団法人児童育成協会）	東京都千代田区四番町2番地12
2	事業者B	—

IV 選考結果について

1 第一次審査

(1) 財務状況分析等について

公認会計士による財務状況調査分析等報告書に基づき説明がありました。

ア 財務状況評価

各法人より提出された財務諸表（決算報告）を基に、財務規模、収益性、安全性について、数値及び比率分析等により、安定的に継続して指定管理業務を行うことができるか否かを、可若しくは不可の絶対評価を行いました。

イ 資金計画評価

各法人より提出された資金計画書を基に、資金・収支計画の正確性、安全性、収支見込の妥当性、運転資金調達の確実性、事業計画との整合性、経費見積もりの妥当性などについて数値及び比率分析により、A～Eの5段階総合評価を行いました。

(2) 選考基準表に基づく採点

選考委員ごとの評価した点数を合計し、全委員の採点した点数の合計による選考を実施しました。

順位	事業者の名称	財務状況 評価	資金計画 評価	合計点数 (1,125点満点)
1	事業者A（公益財団法人児童育成協会）	可	A	878点
2	事業者B	可	A	759点

※ 財務状況評価基準

可（安定的に経営基盤を有している）、不可（安定的に経営基盤を有していない）

※ 資金計画評価基準

A：特に優れている、B：優れている、C：普通、D：やや劣っている、E：劣っている

(3) 選考経過

各委員が各候補者の提案内容の評価について意見交換を行いました。

事業者の名称	委員の意見
事業者A（公益財団法人児童育成協会）	・これまでの大型児童センターの運営実績が豊富であり、実績を踏まえた、具体的で質の高い提案がされている。 ・外国籍利用者への対応や中高生世代へ向けた取組等、麻布地

	<p>区の特性や中高生も利用できる施設として考慮されている。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校や地域とのつながり、子どもたちの居場所として施設を展開していく試みが随所に見受けられた。 ・単に遊んで交流するだけでなく、児童の楽しめることを工夫しようという意欲が感じられた。
事業者B	<ul style="list-style-type: none"> ・学童クラブの運営に関する提案については、運営実績が豊富であり、利用者の意見を尊重した取組、児童帰宅時の送りの経路が記載されており、具体的な提案となっていた。 ・利用者の満足度向上に向けたサービス評価の取組で地域懇談会を実施するなど、地域との関わりを意識できている。 ・大型児童センターの運営実績がなく、本部のバックアップ体制等について、不安に残る部分があった。 ・LGBTQ、障害児、多国籍利用者等への対応が職員研修の理解のみによるものであるなど、具体性に欠ける提案が随所に見受けられた。

以上の点を総合的に勘案して、採点集計表の順位のとおり上位2事業者を第一次審査通過者としました。

2 第二次審査

(1) プレゼンテーション及びヒアリング

第一次審査通過2事業者がそれぞれ10分のプレゼンテーションを行った後、管理運営計画書及びプレゼンテーションの内容に基づき25分のヒアリングを行い、選考基準により審査しました。

(2) 採点結果

選考委員ごとの評価した点数を合計し、全委員の採点した点数の合計と第一次審査の合計点を合算した総合点数をもとに順位付けしました。

順位	事業者の名称	総合点数 (1,625 点満点)	第一次審査点数 (1,125 点満点)	第二次審査点数 (500 点満点)
1	事業者A（公益財団法人児童育成協会）	1, 274 点	878 点	396 点

2	事業者B	1, 075点	759点	316点
---	------	---------	------	------

(3) 選考経過

各委員が第一次審査通過2事業者の管理運営計画書及びプレゼンテーションの内容の評価について意見交換を行いました。

事業者の名称	委員の意見
事業者A（公益財団法人児童育成協会）	<ul style="list-style-type: none"> ・幅広い年代が利用できる大型児童センターとしての施設特性をよく理解し、近隣施設の児童発達支援センターの利用者にも目を向けた提案になっていた。 ・これから施設を運営していく気概が伺え、地域のつながりを大切にしていくという思いが感じられた。 ・大型児童センターの施設長経験がある職員を副施設長候補者として配置するなど、安定的な運営を図る姿勢が見受けられた。 ・施設長候補者はコミュニケーション能力に長けており、子どもたちに限らず、保護者や職員とも良好な関係性を構築できることが期待できた。
事業者B	<ul style="list-style-type: none"> ・専門職員による障害児対応に係る助言や相談ができる仕組みなどがあり、斬新で興味深い提案が見受けられた。 ・中高生プラザを運営していく上で、中高生世代に対する取組について具体的な考えが見受けられなかった。 ・幅広い年代が利用できる施設としての利点を活かす視点が最後まで不足していた。 ・施設長候補者の自信の無さが伺え、本部、他のスタッフの強力な支援がないと安定した運営が図れないと感じた。

V 最終選考結果について

最終選考結果

選考基準に基づき最も高い総合評価を与えられるのは、「公益財団法人児童育成協会」です。選考委員会の総意として、「公益財団法人児童育成協会」を港区立麻布子ども中高生プラザ指定管理者候補者として選考します。